

皆の広場

素人の歴史考①「記紀神話あらすじ他」 所属 4班 氏名 永野 徹

○ 記紀神話 あらすじ(古事記中心) ※天皇の西暦年代は3世紀頃までは

1) 古事記：天地誕生～イザナギ禊 紀元節から逆算されたもので(×)

天地開闢 ◇混沌の世界にやがて天と地と地底が誕生

天の世界：高天原(タマガハラ)、神々の居住地

地の世界：葦原中国(アシワナカソク)・水穂の国

地底の国：黄泉の国(ヨミノクニ)

(高天原) 高天原の神々の誕生；

別天つ神 (コアマツカミ)

三柱誕生 ①天御中主神(アメノミナカヌノカミ) ②高御産巢日神(タカミスビノカミ)

③神産巢日神(カミムスヒノカミ)④ウマシアシカヒヒコジノカミ

独り神 ⑤天之常立神(テンノコタチノカミ)

双び神

神世七代 ①国之常立神(クニノコタチノカミ)

②豊雲野神(トヨクモノカミ)・・・③以後双び神(夫婦)

(七代目)：創世記最後の双び神；

・イザナギ ⑦-1伊耶那岐神(イザナギカミ)男神

・イザナミ ⑦-2伊耶那美神(イザナミカミ)女神

(国創り) イザナギ、イザナミの国造り、神造り儀式(土地、敷地、門、

(初仕事) 天空に浮かぶ天の浮橋にて「天の沼矛」をかき混ぜ地上初めての

国土誕生地上初めての国土誕生：「オノコロ島」(淡路島沖の絵島)

(男女の各神)

(初土地) オノコロ島誕生 天の御柱と八咫殿(神殿)

天の御柱の周りで契りの儀式により、国造り開始

(島創り) 大八島誕生・・・淡路、四国、隠岐、九州、壱岐、対馬、佐渡、

本州(大倭豊秋津島)

六つの島々・・・吉備小島、小豆島、大島、姫島、五島列島、双子島

(神創り) 17柱誕生

住居神々：岩巢、大戸、大屋・・・(7柱)

自然の神：海河水(3柱)風木山野(4柱)

生産の神：(船、食べ物、火)

イザナミの死

火の神(カグツチ)を産み大火傷が原因で死亡する

(埋葬地) 広島県北部の比婆山(紀伊の国熊野説もある)

イザナギ イザナギはイザナミを連綿るため黄泉の国を訪問したが生返らず

黄泉国訪問 ことは不可の為引上げようとすると黄泉国の魔物に攻められる

黄泉国脱出 黄泉醜女(ヨモツシメ)撃退・・・山葡萄、竹の子

黄泉軍(ヨモツイクサ)雷・・・黄泉比良坂(ヨモツヒラサカ)の戦い・・・桃で撃退

黄泉比良坂(ヨモツヒラサカ)=現在の出雲(伊賊夜坂)

イザナギ禊 黄泉の国から戻ったイザナギは日向(阿波岐原)にて禊払し

三柱の神等出現。

ワタツミ三神(海の神)博多湾の安曇連：ソコワタツミ・ナカワタツミ・ウワワタツミの三神

ツツノ三神(航海の神)難波住吉大社：ソコツツノ・ナカツツノ・ウワツツノの三神

三神誕生 左目禊・・・天照大御神(アマテラスオホミカミ)：太陽の女神・・・高天原支配

右目禊・・・月読の命(ツキヨミミコト)：月の神・・・夜の国支配

鼻禊・・・建速須佐之男命(タケハヤスサノオミコト)：嵐の神・・・海原支配

2) 出雲編：スサノオ命追放～大国主)

スサノオ乱行で追放

三神の内スサノオ命だけが母の住む根の堅州国に行きたいと暴れまわ

るイザナギはスサノオの乱暴を咎めて葦原中国(地上の国)から追放

を命じた同時にイザナギ大御神は近江の国・多賀神社へ隠居された

誓約(ウケイ)=占い

スサノオはアマテラス大御神に別れの挨拶の為に高天原(天安河)を訪問

スサノオの身の潔白証明の為、ウケイ(誓約)で子を産む事になる

アマテラスの子=五柱男神誕生(大和朝廷)(アマテラスの勾玉から)

スサノオの子＝三柱女神誕生(九州宗像神社)(スサノオの剣から)
アマテラス 誓約(ウケイ)の後スサノオは高天原で暴れだしアマテラスは天の
岩屋に隠れる。
天の岩屋戸 アマテラスが隠れて高天原も葦原中国も暗闇となり禍が広がる
(天岩屋神社:宮崎県高千穂・・・高千穂夜神楽)
アマテラス天岩戸踊り:
オモイカネ(知恵の神)の演出でアマテラスを呼び戻す儀式を八百万
の神が催行。
役者:アメノウズメ(猿女)の神楽踊り、フトダマ(鏡:忌部)、
タジカラオ(岩戸を開く)アヤノコヤネ(祝詞)、イシコリドメ(鏡製作)
、タマノオヤ(珠製作)

「スサノオの地上支配」

スサノオ

出雲の国へ 天の岩戸事件でスサノオの罰は「千位の置戸」と髭剃り、爪きりで
追放され出雲の国、肥河(現斐伊川)にやってくる

スサノオ 老夫婦(アサヅチ、テナヅチ)と娘クシナダ姫が八俣の大蛇に食べられる
と泣いていた。

八俣ヲロチ そこで、スサノオはヲロチを退治する代わりに姫を貰う約束をし
退治 実行した。退治した八俣のヲロチの尻尾から三種の神器の一つである
「草薙の刀」が現れたのでアマテラス大御神に献上。ヲロチ退治後クシナダ姫
を得て出雲の国に神殿(須賀の宮)を建て周囲には垣根を八重に廻ら
せました。美しい雲と姫に感動して日本初の和歌を詠じた
※八重垣神社(島根県松江市):スサノオとクシナダ姫を奉る神社

スサノオ命

日本初の和歌

「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣つくる その八重垣を 」

大国主の命

(オホニニギハヒ) 出雲に住むスサノオの6代目の子孫オホナムヂ(オホニニギ)は稲羽の
姫に求婚に赴く途中で皮を剥がれた素戔を助け姫に認められる
結果、八十兄弟神に嫉妬を買い命を狙われ根の堅州国に逃げスセリ姫
結ばれる。スセリ姫の父(スサノオ)の試練をパスしてオホニニギの名
を頂き、兄弟神を押えて国造りを開始して葦原中国を支配する
(大国主の別名)
・オホナムヂの神(穴の中の偉大な人)・・・因幡の白うさぎ事件と
ヤカミ姫求婚
・アシハラノシコオの神(地上の国から来た醜男の神)
・ヤチホコの神(多数の武器を持つ神)
・ウツシクニタマの神(世界を象徴できる国の神)
・大国様:神仏習合思想で大きな袋でインドの神様大国天＝大国主と
呼ばれる
(因幡の白うさぎ)
・スサノオの6代目の子孫となるオホナムヂ(オホニニギハヒミコ)には八十神の
兄弟あり
・ヤカミ姫に求婚の為に稲羽に向かう事になり八十兄弟神の荷物を背負
された。先発の兄弟神は白兔海岸で赤裸の白兔に酷い治療方法を教
えた為にあまりの 痛さに白兔が泣いているところへ、オホナムヂ遅
れて到着して正しい治療法を教えたため傷は癒えました。この話
はヤカミ姫に伝わり求婚相手に決まりました。

3) 大国主～ニギハヒ降臨～神武誕生

(オホニニギハヒ) (兄弟神からの受難)

スサノオ6代目 ヤカミヒメ(現:鳥取県八頭郡八上)を奪われた八十神は怒りオホナムヂ
の殺害を企てる。真っ赤に焼けた岩を投げつける、大木の裂け目に
挟み、紀の国まで追掛ける。スサノオ命は紀の国から堅州国へ逃れる
(スサノオからの試練):蛇・百足虫退治、野焼攻め、シラミ退治
・スサノオの試練を克服して太刀・弓を貰い娘スセリ姫と結ばれる

出雲の国支配

・スサノオからオホニニギハヒ命と名前を貰い兄弟神を支配して出雲の国を治め

葦原中国国造り

- ・常世国スナヒコと大和三輪山オオモノシの協力で葦原中国の国造り完成
(スナヒコ:農耕・経済の神、オオモノシ:祭祀の神を大和の東の山に祀れ)

4) 天照大御神の地上支配譲り(オオクニヌシの国譲り)

高天原

アマテラスが国譲要求

- ・オオクニヌシによって統治完成した葦原中国をわが子が治めるべきとアマテラスが言う。

天照大御神：

- ・アマテラスの御子達を使者として地上に派遣するが失敗する

御子の派遣失敗

- ・アメノオホミ(長男):天の浮橋から地上を見下ろし地上の神々の喧騒に嫌気がして地上降臨を諦める。
- ・アメノホヒ(次男):次の使者であるアメノホヒは地上に降りるとオオクニヌシに靡いてへつらう
- ・アメノワカヒコ:地上のシタデル姫と結婚して連絡不通のため派遣したナキメを弓で射殺し地上を支配する邪心ありとの反逆と見なされて還し矢で命を落す。

武神タケミカズチ派遣

- ・度重なる失敗で強力な武力の神タケミカズチと天船の神アメトリフネを派遣
- ・大国主の子ヤマトシロシは戦わずして降参、次の息子タケミカタは敗れて諏訪に退散、タケミカズチはタケミカタとの力比べで圧勝し(美保～高志～諏訪湖)まで追いやる

国譲り準備完了

- ・敗れたオオクニヌシは隠居宮殿として超高層の高さ48mの出雲大社の設立を交換条件として国譲り完了(10月に国中の神様が縁結に出雲へ集まる:10月=神無月)

天孫降臨・高天原の神による地上支配が確定するとオシホミミの子ニニギが地上に降臨。

ニニギ命降臨

- ・ニニギは高天原から日向の高千穂に降りる(ニニギはアマテラスの孫)

三種神器・アマテラス大御神から三種の神器(勾玉、鏡、剣)を授けられた

同伴者・アメノコヤネ、フタマ、アメノウズメ、イコリドメ、タマノオヤ、オモイカネ、タジカラオ、アメノイトワケ

ニニギの結婚・笠沙岬(鹿児島県・野間岬)でコノハナサクヤヒメに会い妻とする

天皇の寿命・父オオヤマツミは姉イワナガヒメも姉妹婚で差出すが醜い姉を追り返した為うに寿命が発生姉妹婚の意味一姉は石のように永遠の命を、妹とは花のように繁栄するとの意

三柱の御子・ニニギ命とコノハナサクヤ姫に三柱の御子誕生

ホデリ(海彦):隼人の祖となる アメノオシ(大友氏)、アメノユキネ(中臣氏)

ホスセリ:尾張氏の祖 フタマ(忌部氏)、アメノウズメ(猿女君)

ホヲリ(山彦):天皇家の祖ニニギの跡継ぎ、イコトリ(鏡職人) タマノヤ(勾玉)

竜宮伝説(隼人の地)

山彦は海彦の釣針をなくして途方にくれていると潮の神があらわれワツミの宮殿に案内され、娘トヨタマヒメを妻として3年間過ごし海彦の釣針を持って帰還。ワツミの神の娘(トヨタマ姫、タマリ姫)、潮の神:塩土老翁=住吉の神=武内宿禰

※大和建国以前の天皇家の祖先は南部九州で隼人と血を分けた兄弟

ホトリ結婚・ホトリはトヨタマヒメと結婚して子供ウガヤフキアエズ誕生

ウガヤフキアエズ・ウガヤフキアエズが叔母タマリ姫と結婚し、四柱の御子誕生

の結婚 四柱(イツセ、イナヒ、ミケス、ワカミケス=神武天皇の誕生)

5) ①神武天皇～⑮神功皇后)

神武天皇神話

- ・神武天皇の大和征服、皇后(ヒメタラシケヨリヒメ)、竹・籠の本場南九州

伊波礼毘古命

出身=籠の呪術

ワケヌミコト(若御毛沼命)=イワレヒコ(伊波礼毘古命)=神武天皇

大和朝廷確立

- ・宇陀で竹籠の呪術(天香山社の土で土器・甕を造り天神地祇で呪いか)
- ・神武天皇～九代天皇までは創作で実在せずとされている

神武天皇の東征

- ・イッセとカムヤマトイワレヒコは天下を治める為「神武の東征」(大和朝廷確立)
- ・日向(高千穂)～筑紫1年(岡田宮)～安芸の国7年(タリ宮)～吉備8年(高島宮) その後 登美の豪族(ナガスヒコ)に攻められイッセの死で熊野へ迂回して橿原神宮

天下の統治 ・熊野からはヤタガラスの案内で吉野～宇陀～忍坂～登美～橿原(橿原神社:神武天皇を奉る)

ヤタガラス(三神の使い):熊野から橿原神宮まで魔物から神武東征伐の守り神。熊野本宮:熊野速玉神社(新宮 那智大社(勝浦))

- ・河内の国には既にニギハヤヒミコが降立ち、大和の国に移りこの土地の豪族ナガスヒコ(長髓彦)を支配下において統治(ニギハヤヒミコの子孫=

①神武天皇BC660 物部氏=石上神宮の祭祀者)

・伝説の初代天皇

(アマテラス神系とスサノオ命系の統合)

(2 神系統の統合)

- ・イワレヒコ(天照大御神系統)とiskeoriヒメ(須佐之男命系統)の結婚
天照系(アマテラス-オホミミコト-ニギハヤヒ命-ホリ命-ウガヤフキアエス命)
スサノオ系(iskeoriヒメはスサノオの分身三輪山のオオモノシと大阪三島の

欠史八大の天皇(第2代～第9代) ヤセタラ姫の子供)

- ・架空の天皇?にも拘らず御陵は葛城地方にある
古い時代には初代天皇は崇神天皇とされており、後世に神武東征が創作されたため架空の天皇が創作されたと言われている
- ・この間氏族の始まりが記載されている

大和朝廷 ・大和朝廷は3世紀末頃から大和地方に諸豪族が現れ4世紀中頃誕生

- ・大和朝廷の起源とされる巻向遺跡(宗神、垂仁、景行の天皇御陵)

⑩崇神天皇BC97

(ミコトイリヒコ) ・大和朝廷の諸国平定(北限:会津・オホビコとタケヌカワケが別路を北上し再会した所)

- ・最初の国の統一(オホビコを北陸道へ、タケヌカワケを東海道へ、ヒコイマスを丹波へ)

(相撲、埴輪、伊勢

神宮)の起源

- ・天皇家が祭祀で大和を掌握し、出雲の祭祀と結合、御陵は三輪山麓(巻向)
- ・疫病流行(三輪山オオモノシの祟りを鎮める為にオホタタネコに祀らせる)

⑪垂仁天皇 箸墓=土師墓?

箸=土師=埴輪

- ・オホタタネはオオモノシとイタマヨリヒメの子孫、倭途途日百襲姫(大物主神の) 箸墓伝説 と(ヤマトヒメモリヒメ)

BC29 ・皇后サヒメの兄サヒコの謀反、倭姫命が天照大神を伊勢に祀る、

(イケミイリヒコ) 殉死を禁じて埴輪埋設

- ・サヒメの御子はホムチワケは出雲の神(オウケニシ)の祟りで口がきけず出雲参拝で回復この時大白鳥をみて回復の兆しがあり鳥を飼育する集団鳥取部を置いた(鳥取県)

⑫景行天皇AD71～

- ・80人の御子あり。この内ワタリシコ、ヤマトケル、イホキノイリヒコの3人が皇位継承資格太子

(オホタタネコイワケ)

- ・ヤマトケルに熊襲(隼人)征伐を命じ、次に東征(東国の蝦夷)させて常陸まで統一。
- ・東国の蝦夷を平らげて、帰路、伊吹山で負傷しノボノで死す

- ・能煩野で「大和は国のまほろば、たたなづく青垣、山籠れる大和し
うるわし」辞世の句

⑬成務天皇131年

- ・御子がなく直系が途絶えたため、ヤマトケルの御子(タラシナカツヒコ)が14代

⑭仲哀天皇192年 天皇として即位

- ・ヤマトケルの御子で九州遠征中に変死する
- ・皇后はのちの神功皇后

○神功皇后(オホミタマ)201年

- ・架空の人物か? : 九代目開花天皇の曾孫オキナガノ宿根の娘、
母はアメコ子孫葛城高額媛
- ・仲哀天皇の変死のあと筒之男三神(ソコツ、ナカツ、ウハツ住吉大社)のお告
で新羅遠征勝利
- ・敦賀の気比神宮は神功皇后ほか7名が祭られ聖務天皇時に
「一夜の松原海岸」伝説
- ・新羅遠征の帰路、筑紫の国でホムタワケ(後の応神天皇)を出産
(敦賀=角鹿)~出雲~筑紫

6) ⑮応神天皇~⑳代宣化天皇)

⑮応神天皇270年

- (ホムタワケ)・大和朝廷の本拠地は河内に移り巨大な古墳時代となる
- ・河内王権の誕生(河内の国に宮を構える)、巨大墳墓が築かれ始まる

仁徳天皇と同一説

- ・竹内宿根はホムタワケを連れて琵琶湖~若狭へ戦いの禊払いで敦賀
気比神宮へ。3人の御子(ウヂノキイラツコ、オホヤマモリ、オホサギ
(仁徳天皇)、朝鮮半島動乱で多数の渡来人
- ・渡来人活躍: 秦氏(弓月君、阿直岐、和仁)東漢氏(阿知使主)
農耕、土木、治水、裁。秦氏(山背国): 一族1万8千人
秦河勝法隆寺建立(聖徳太子時)、伏見稻荷は秦氏創建・この頃5人
倭王(応神から雄略)が中国南朝宋に使者派遣(中国史書)421年~471年

倭の五王宋に使者

(讃、珍・清・興・武)

⑯仁徳天皇313~

- ・聖帝と呼ばれ大規模な治水工事と3年間年貢と工事労働中止により
国を建直す。皇后はイワヒメ

⑰履中天皇400~

- ・般余(イワレ)の若桜宮で即位の日に宮殿の火事(中国では西晋が滅び
南北朝時代に)

⑱反正天皇406~

- ・河内の柴垣宮ではじめての兄弟承継の即位

⑲允恭天皇412~

- ・3人目兄弟として遠飛鳥宮で即位し氏姓制度の改革(動乱の時代)

20安康天皇456~

(アホリミコ)・オホクサカの子で7歳のマヨリに天皇がはじめて暗殺される

21雄略天皇463~

- (オホハツ)・5世紀はじめ近畿一円の領土から広く関東から北九州まで及ぶ
- ・安康天皇の敵討ちでマヨリ、ツブラノオホミを討つが協力しない2人兄弟を殺
- ・勇猛なオホハツは雄略天皇となってから歌物語の世界に走る
- ・朝鮮半島では倭と百済が同盟を結び新羅と争い北から高句麗が圧迫
- ・雄略4年百済より毘支王が来日し筑紫で武寧王を設けて百済に返す
- ・雄略8年百済の要請で高句麗を撃破、翌年キノオユミスキネ(紀子弓宿根)
を新羅攻撃に派兵

二面性・日頃から乱暴で大悪天皇一方で葛城山の「一言主神」をもてなし二面
(ヒトコヌシノカミ)

22清寧天皇480~

- ・謀反を起こしたホシカワミコ(星川豊子)を倒して即位、在位は短く子供もた
- ・諸国にシラカベ(白髪部)の舎人トネリ、膳夫カシワデ、鞠負ユケイを設ける

- ・イハノオシハの御子オケ億計とヲケ弘計が播磨の国で見つかり権力者・平群氏を滅ぼす(イハノオシハは允恭天皇の兄の御子、妹はイトヨで清寧天皇の後政治舞台に担がれる)
- ・億計と弘計の即位譲り合いがあり中継ぎで姉のイトヨヒメコ(飯豊皇女)が執政

23 顕宗天皇485

- ・弟ヲケが即位、朝鮮半島で紀生磐宿根が三韓王(神聖)と名乗り百済を攻め失敗 (キノオイワノスクネ)

24 仁賢天皇488

- ・兄オケが即位、億計の後が自害、雄略天皇からこの代まで平群氏が大勢
- ・仁賢天皇亡き後、平群真鳥が政権を牛耳る

25 武烈天皇500

- ・オケの御子が即位、皇統断絶の危機、悪業行為が際達つ(捏造説が強い)
- ・オケの皇子は平群真鳥の子(シビ)と影姫を争うが負けて大伴金村に平群追討を命ず

26 継体天皇507

- ・大伴氏は仲哀天皇5世のヤマトヒコウ(倭彦王)を擁立失敗
- ・北国越の三国で応神天皇の5代目孫・継体天皇が河内国樟葉宮で即位
- ・朝鮮半島出兵が繰り返される。(任那が百済と新羅の圧迫を受ける)
- ・百済が任那4県と大加那の割譲要求に屈服して大友氏は了承
- ・新羅の任那侵略
- ・大伴金村の勢力を恐れ即位20年後に大和の磐余玉穂宮に入る
- ・武烈天皇なき後、継体天皇と蘇我氏の間には皇位を巡り激しい謀略戦
- ・近江毛野に6万の軍勢を授けて北九州の筑紫君磐井の反乱に合うが物部氏が制圧

27 安閑天皇535

- ・継体天皇の御子、各地に朝廷の直轄地屯倉を設立(地方豪族の拠点交通の要所)

28 宣化天皇539

- ・安閑天皇の弟、大臣に蘇我稲目を任命し蘇我氏台頭のはじまり

7) ②⑨ 欽明天皇～③⑦ 齊明天皇

29 欽明天皇562

- ・宣化天皇の弟
- ・任那復興の新羅追討会議、物部氏は任那4県割譲の失敗責任で大伴氏を排除
- ・540年百済と連携して任那復興の拠点として任那日本府設立
- ・百済は高句麗に攻められるが新羅が領土を併合して勢力拡大
- ・554年百済聖明王が戦死し、任那は新羅の支配下、その後も復興ならず敗北
- ・552年仏教公伝:百済の聖明王から金像の仏像と経典が献上される
- ・仏教崇拝に対して対立:大臣・蘇我稲目は賛成、神道派の大連・物部尾輿は反対

30 敏達天皇572

- ・欽明天皇の御子、蘇我馬子が大臣、物部守屋を大連に任命

31 用明天皇586

- ・敏達天皇の弟で仏教に帰依する。蘇我馬子が大臣・外戚となる
- ・蘇我派:皇后トミケカシヤヒメ(豊御食炊屋姫)、蘇我馬子
- ・物部派:アナホベノミコ(穴穂部皇子)、物部守屋、ナカミナカツミ(中臣勝海)
- ・ミナサカウ(三輪逆)を討ち中臣は守屋を裏切る。馬子は泊瀬部皇子に命じ穴穂部皇子を誅殺
- ・蘇我氏の大義名分の計略により物部氏 (ハツセベノミコ)

32 宗峻天皇588

- ・用明天皇の弟、馬子と炊屋姫(カシヤ)の傀儡から敵対し蘇我馬子は天皇暗殺
- ・新羅追討2万人の遠征軍は筑紫の国に駐留のままとなる

33 推古天皇593

- (トミツカ・初の女性天皇(欽明天皇の娘、用明天皇の妹) ウマヤトノミコ(厩戸皇子)

=聖徳太子？19歳の甥、厩戸皇子を皇太子とする（聖徳太子＝用明天皇の長子＝父母共蘇我氏系）

（聖徳太子登用）

- ・600年に新羅と任那が衝突し、新羅遠征で6城を割譲成功
- ・601年、蘇我氏に対抗する為に斑鳩に宮室を移す（難波と大和を結ぶ大和川に面している）

中央集権化推進
官吏制度改革
仏教興隆政策

- ・602年2回目の新羅遠征途中、実弟来目皇子と異母弟妻の死で遠征中
- ・603年冠位十二階を定める（個人の登用、世襲でなくす）
- ・604年憲法17条を制定（和と仏教を尊び、儒教の徳治思想で政治）
- ・607年小野妹子を遣隋使派遣（隋の煬帝に冊封でなく対等外交を求め（600年派遣失敗）
- ・621聖徳太子死去
- ・623年3回目の遠征は新羅が降伏し大成功。
- ・628推古天皇死去、田村皇子（舒明天皇）と山背大兄王とが皇位継承争

34舒明天皇629

- ・634年彗星が現れ天変地変が多発、
- ・皇后劬羅比羅（宝皇女）、皇子たち（中大兄皇子、間人皇女、大海人皇子）

35皇極天皇642

- ・皇后宝皇女の即位、天辺地変が続く、蘇我の蝦夷、入鹿の襲撃で山背大兄王は自害。伴造、部民制度の行き詰まりで天皇家・諸豪族は困窮して対立

大化の改新・645年乙巳の異変：中大兄皇子、藤原鎌足、南淵請安、蘇我倉山田石川麻呂らが専横する蘇我蝦夷と入鹿を討つ（三韓進調の儀の席で入鹿を殺す）

36孝徳天皇645

- ・皇極天皇が軽皇子へ譲位で皇位継承し難波（長柄豊崎）宮に移る
- ・645日本初の年号「大化」を定める、
- ・646改新の詔を發布（公地公民制で私有地廃止、中央集権組織、班田収受、税制）
- ・中大兄皇子の肅清：古人大兄皇子、蘇我倉山田石川麻呂、有馬皇子：653年飛鳥へ戻る

37齊明天皇655

- ・中大兄皇子の母宝皇女が再即位、政治は皇子に任せ造営事業（岡本宮、水路、石垣）専念
- ・造営事業：明日香村石と水の都（後飛鳥岡本宮、狂心の渠、酒船石遺跡、須弥山像）
- ・660年唐・新羅連合軍により百済・高句麗が滅亡
- ・661年齊明天皇百済へ出兵途中に筑紫で病死、中大兄皇子が引き継
- ・663年白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗し百済復興ならず、高句麗も滅亡

8) ③⑧天智天皇～④⑩持統天皇

38天智天皇668

- ・668年に即位して白村江で大敗し唐・新羅の侵攻に備え国土防備強化（筑紫に防人配置、大宰府に水城、瀬戸内沿岸に朝鮮式山城築造）
- ・664官僚組織強化（冠位26階）、668年中臣鎌足に命じて近江令編纂
- ・670年初の戸籍台帳「庚午年籍」が作成された
- ・667年大津宮へ遷都

壬申の乱671

- ・天智天皇は弟の大海人皇子を皇太子に子の大友皇子を太政大臣
- ・大海人皇子は出家し吉野へ後に不破・鈴鹿の関で東国をまとめる
- ・大友皇子側は追討軍を募集するが河内以外は筑紫・東国・吉備万事
- ・671年大海方の大伴吹負が大和で挙兵し火蓋が切られる
- ・大海人皇子不破から近江に侵攻・大津瀬田唐橋で勝利・大友皇子は自

39天武天皇672

- ・中央集権改革として大臣を任命せずに皇親政治を断行
- ・684八色の姓を制定し皇族の真人を最上位に設定
- ・689年制定の初の飛鳥浄御原律令と国史「日本書紀」の編纂開始により国家体制を整備
- ・天武の子大伯皇女が伊勢斎宮に選ばれ以降未婚の内親王が齊王と

- ・686年天武の死後、持統皇后が称制を行う 大津皇子は謀反密告により処刑される

40持統天皇690

- ・持統天皇は即位前に飛鳥浄御原律令を施行、庚寅年籍の作成
- ・694年日本初の条坊を備えた本格的な都城・藤原京が完成
- ※律は刑法、令は行政法
- ・何度も吉野御幸
- ・702年死去した持統天皇は、熱心な仏教徒ではじめて火葬される

41文武天皇700

- ・700年草壁皇子の皇子(軽皇子)が即位

歴代の律令まとめ

天 皇	名 称	制定年	施行年	編者
天智天皇	近江令	668	671	中臣鎌足
天武天皇	飛鳥浄御原令		689	草壁皇子等
文武天皇	大宝律令	701	701 702	刑部親王 藤原不比等
元正天皇	養老律令	718	767	藤原不比等
嵯峨天皇	弘仁格式	820	820	藤原冬嗣
清和天皇	貞観格式	869 871	869 871	藤原氏宗
醍醐天皇	延喜格式	907 927	908 967	藤原時平 藤原忠平
淳和天皇	令義解	833	833	清原夏野
清和天皇	令義解	859～876		惟宗直本